

## 激しい風よ 詩篇 148:7-14

2023. 10. 29 丘の上 NO. 711

春日部福音自由教会 山田豊

10月15日の説教の続きです。

暑かった夏が10月になっても続き、ここにきて一気に紅葉の季節になったような感じですか。木枯らし1号がそろそろ吹いてくる頃でしょうか。神に造られた世界は、あらゆる仕方で主なる神を賛美すると詩篇148に歌われているのですが、その自然界の営みの秩序が以前よりおかしくなっているのでしょうか。ローマ8:22にあるように、被造物も呻き苦しんでいるのです。

前回アッシジのフランシスコによる太陽の賛歌を紹介しましたが、カトリック祈禱書には、次のようにありました。一部抜粋いたします。

「神よ、造られたすべてのものによってわたしはあなたを賛美します。

わたしたちの兄弟、太陽によってあなたを賛美します、太陽は光をもってわたしたちを照らし、その輝きはあなたの姿を現します。わたしたちの姉妹、月と星によってあなたを賛美します、月と星はあなたのけだかさを受けています。わたしたちの兄弟、風によってあなたを賛美します、風はいのちあるものを支えます。」(以下略、句読点は原文にはない)

詩篇148:8のヘブル語聖書に使われている風という言葉は、ルアッハ、息とも訳せる言葉で、神が人に命の息(ルアッハ)を吹きこまれ生きるものとなったと記されています(創世記2:7)。他の動物も同様でした。祈禱書にあるように、息、すなわち風は命あるものを支える象徴となっています。

新約聖書では、イエスがニコデモに語られた言葉の中で使われており、ヨハネ3:8では、思いのままに吹く風は、自由に働かれる聖霊を表しています。私が静座をして深い呼吸をするときに、全身全霊が聖霊に満たされるようイメージするのは、このみ言葉に基づいています。

本詩篇の8節には、「み言葉を行う激しい風よ」とあります。明治訳では「みことばにしたがふ狂風よ」とあります。行うという言葉には、従わせるという意味もあり、激しく吹く風に森の木々が一定方向に倒されている様子に重なります。山歩きの好きな方は、強い風をもろに受ける稜線の木々や植物が、そのようになっている光景を見たことがあるでしょう。

聖霊に導かれるとは、神の言葉に従う生活です。この世の流れに任せるのではなく、み言葉に従う生活を送ることです。神の言葉に聞き従うことこそ、神を賛美する姿にほかなりません。

引用聖句

アモス 8:11 見よ、その時代が来る。——【神】である主のことば——

そのとき、わたしはこの地に飢饉を送る。パンに飢えるのではない。

水に渴くでもない。実に、【主】のことばを聞くことの飢饉である。

創世記 2:7 神である【主】は、その大地のちりで人を形造り、その鼻に

いのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

ローマ 8:22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、

ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

ヨハネ 3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこ

から来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、

それと同じです。」

マルコ 4:35-41 さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに「向こ

う岸へ渡ろう」と言われた。36 そこで弟子たちは群衆を後に残して、

イエスを舟に乗せたままお連れした。ほかの舟も一緒に行った。37 す

ると、激しい突風が起こって波が舟の中にまで入り、舟は水でいっぱい

になった。38 ところがイエスは、船尾で枕をして眠っておられた。

弟子たちはイエスを起こして、「先生。私たちが死んでも、かまわない

のですか」と言った。39 イエスは起き上がって風を叱りつけ、湖に

「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、すっかり凪になっ

た。40 イエスは彼らに言われた。「どうして怖がるのですか。まだ信

仰がないのですか。」41 彼らは非常に恐れて、互いに言った。「風や湖

までが言うことを聞くとは、いったいこの方はどなたなのだろうか。」

マタイ 4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、

神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」